

く努力した。

此の期日本農林組合、日本河野同盟等に於ては、概くまで全国統一政党の成  
立に努力せざるべかりきとの意味であつた。公平なる憲法草案があつた。

かくて幸に危機を脱する事を得たが、此の爲に日時が並引して十月十七日よ  
り三日間に及び、漸く第二回閣議現行調査委員会が開始された。此の委員会に  
於て、本評議会は結果も如実に、謙譲なる真意を示したる爲、大體若党準備の大綱  
を協議することが出来た。

是るに其後又も政受準備運動が積極に乗り上げた。其は従同盟青年会第二  
会議や若党の並引に於て、分岐準備運動に働かざりし、政治研究会、平  
平社、無産者同盟、新党に及びしものも、若党青年同盟等を政受より除外せし  
むる意を發表したるに對し、各地に於ける無産政友準備地方協議会は之に反  
對した。

然る其の中には従同盟前役員も多少に少くまは居た。そこで準備は相當  
の急ぎを以て、十一月二十九日第二回閣議現行調査委員会を閉じ、翌日第二次  
会議が開始された。

此の第二回調査委員会に於て、労働同盟は幾耳に力の加さず退き、脱退を  
宣した。然るその理由とする所は本評議会の對立関係を、幾層に政友準備運

動に於て折衷したるのであつた。此の場合全体から見て、何等の意味も理由もあ  
つた、斯くて若党直前に政友準備運動は大困難に遭遇した。従同盟兼区りの折  
衷には相違も無かつた。

然し、従同盟が脱退したのは、何と言つても、評議会の對立関係を、此  
に結果を爲さしむるに不爲りであるが故に、本評議会は、此の困難に對し、全  
體同心の態度を採る事が出来なかつた。そればかりでなく、當時従同盟の最高  
幹部中の一部の諸君も、殊に本評議会を「共産党の平先」云々とし、中傷した事  
は、本評議会の真意を充分理解せられざる多くの僚友團體に、本評議会を誤  
解せしめ、従同盟脱退を引いては、政友成立の遅延、甚しくは、單一政友成  
立の不可能と見るに及びざるやの途を採りしめた。

概し依り、自派の僚友團體の代表者諸君は、其困難を緩和すべく努力せられ  
た結果、當時の日本労働組合聯合の代表改本考二即改より、

一 評議会は此際自派内に脱退する

二 従同盟には後派制議を爲さず

三 来るべき評議会上、両者を復帰せむるべく努力云々  
の案も案も提出された。

之に對し、本評議会は、意を決して此の案を承認し、案よく一時脱退して、